

授業科目 <p style="text-align: center;">緩和ケア論</p>	科目概要・形式 <p style="text-align: center;">2単位 30時間(15コマ) 講義科目</p>	配当年次 <p style="text-align: center;">博士前期1年次 後期開講</p>	オンライン参加 <p style="text-align: center;">可・不可 「下記6, 7参照」</p>
科目責任者	<p>鳴井ひろみ</p>		
担当者	<p>鳴井ひろみ、本間ともみ、佐藤温（非常勤）、山崎智子（非常勤）、高橋利果（非常勤）、小林成光（非常勤）、福田麻実（非常勤）</p>		
<p>1. 科目のねらい・目標</p> <p><ねらい> がんがもたらすあらゆる苦痛症状および苦悩を包括的に理解し、エビデンスに基づいて適切なケアとケアを統合して提供する能力を身につける。また、End of Life Care、家族のグリーフワークについて学び、終末期がん患者および家族のQOL維持向上のための看護援助方法を探究する。</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 緩和ケアの概念、歴史および動向を理解する。 2) がんがもたらす苦痛症状および苦悩を包括的に理解し、事例を通して、アセスメントに基づく適切なケアとケアを統合した緩和のための看護援助を検討することができる。 3) 患者・家族が直面する倫理的課題と葛藤の解決方法を探究し、倫理調整について理解できる。 4) 最期のときをその人らしく生きるための患者およびその家族への支援・遺族ケアの必要性について説明できる。 5) 緩和ケアにおける在宅療養のための地域連携について理解を深めることができる。 			
<p>2. 授業計画・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回：がん看護における緩和ケアの現状と課題（鳴井） <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアの概念と歴史 ・全人的苦痛の捉え方 【プレゼンテーション】【ディスカッション】 2回：痛みのあるがん患者のアセスメントと看護援助（事例）①（佐藤・鳴井・小林） <ul style="list-style-type: none"> ・がん性疼痛の種類、発生機序 ・事例の現病歴、病理・画像診断、看護情報等から必要な緩和治療と看護援助についての臨床判断 【講義】【ディスカッション】 3回：痛みのあるがん患者のアセスメントと看護援助（事例）②（佐藤・鳴井・小林） <ul style="list-style-type: none"> ・がんがもたらす苦痛症状のメカニズム、アセスメント方法、および必要な緩和治療と看護援助についての臨床判断に関する討議（最新のエビデンス、ガイドライン、アセスメントツールおよび看護援助方法について文献検索し資料作成） 【プレゼンテーション】【ディスカッション】 4回：倦怠感・呼吸困難のあるがん患者のアセスメントと看護援助（事例）①（佐藤・鳴井・小林） <ul style="list-style-type: none"> ・倦怠感・呼吸困難の発生機序 ・事例の現病歴、病理・画像診断、看護情報等から必要な緩和治療と看護援助についての臨床判断 【講義】【ディスカッション】 5回：倦怠感・呼吸困難のあるがん患者のアセスメントと看護援助（事例）②（佐藤・鳴井・小林） <ul style="list-style-type: none"> ・がんがもたらす苦痛症状のメカニズム、アセスメント方法、および必要な緩和治療と看護援助についての臨床判断に関する討議（最新のエビデンス、ガイドライン、アセスメントツールおよび看護援助方法について文献検索し資料作成） 【プレゼンテーション】【ディスカッション】 6回：腹水・腹部膨満感・リンパ浮腫のあるがん患者のアセスメントと看護援助（事例）①（佐藤・鳴井・本間） <ul style="list-style-type: none"> ・腹水・腹部膨満感・リンパ浮腫の発生機序 ・事例の現病歴、病理・画像診断、看護情報等から必要な緩和治療と看護援助についての臨床判断 【講義】【ディスカッション】 7回：腹水・腹部膨満感・リンパ浮腫のあるがん患者のアセスメントと看護援助（事例）②（佐藤・鳴井・本間） <ul style="list-style-type: none"> ・がんがもたらす苦痛症状のメカニズム、アセスメント方法、および必要な緩和治療と看護援助についての臨床判断に関する討議（最新のエビデンス、ガイドライン、アセスメントツールおよび看護援助方法について文献検索し資料作成） 【プレゼンテーション】【ディスカッション】 8回：不安・抑うつ・せん妄のあるがん患者のアセスメントと看護援助（事例）①（佐藤・鳴井） <ul style="list-style-type: none"> ・不安・抑うつ・せん妄の発生機序 ・事例の現病歴、病理・画像診断、看護情報等から必要な緩和治療と看護援助についての臨床判断 			

<p>【講義】【ディスカッション】</p> <p>9回：不安・抑うつ・せん妄のあるがん患者のアセスメントと看護援助（事例）②（佐藤・鳴井） ・がんがもたらす苦痛症状のメカニズム、アセスメント方法、および必要な緩和治療と看護援助についての臨床判断に関する討議（最新のエビデンス、ガイドライン、アセスメントツールおよび看護援助方法について文献検索し資料作成）【プレゼンテーション】【ディスカッション】</p> <p>10回：スピリチュアルペインのある患者のアセスメントと看護援助①（鳴井） ・スピリチュアルペインの特徴、スピリチュアルケアの概念 【プレゼンテーション】【ディスカッション】</p> <p>11回：スピリチュアルペインのある患者のアセスメントと看護援助②（鳴井） ・スピリチュアルケアニーズのアセスメント、介入方法 【プレゼンテーション】【ディスカッション】</p> <p>12回：緩和ケアをめぐる倫理的問題（福田・鳴井） ・看護師が遭遇する倫理的葛藤と対応、終末期のセデーション 【講義】【ディスカッション】</p> <p>13回：家族グリーフワーク①（山崎） ・死にゆく患者の家族の理解と援助 【講義】【ディスカッション】</p> <p>14回：家族グリーフワーク②（山崎） ・死別後の家族の理解と援助 【講義】【ディスカッション】</p> <p>15回：緩和ケアにおける在宅ケア（地域連携：在宅ケアの実際、社会資源の活用）（高橋） 【講義】【ディスカッション】</p>
<p>3. 教科書、参考書</p> <p>〈参考書〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ編：がん看護コアカリキュラム日本版、手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア、医学書院、2017年 ・Linda H. Eaton 他著，鈴木志津枝他監訳：がん看護 PEP リソース 患者アウトカムを高めるケアのエビデンス、医学書院、2013年 ・Mary Fran Tracy 他著，中村美鈴他監訳：高度実践看護 統合的アプローチ、第2版、へるす出版、2020年 ・井部俊子他監：専門看護師の思考と実践、医学書院、2015年 ・鶴若麻理他編：看護師の倫理調整力 専門看護師の実践に学ぶ、第2版、日本看護協会出版会、2022年 ・Robert Twycross 他著，武田文和監訳：トワイクロス先生の がん患者の症状マネジメント，第2版，医学書院，2010年 <p>他、講義の中で適宜紹介する。</p>
<p>4. 成績評価方法</p> <p>授業への取り組み状況 30%、プレゼンテーション・質疑応答の内容 40%、「緩和ケアにおいてキュアとケアを統合した看護援助を提供するための臨床判断」に関するレポート 30%で総合的に評価する。</p>
<p>5. 受講要件</p> <p>CNS（専門看護師）コースががん看護の学生は必修</p>
<p>6. 社会人学生に対する配慮</p> <p>オンライン授業等は相談があれば個別に対応する。オンライン授業の場合はリモートでの同時双方向型授業を行う。</p>
<p>7. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習として、がんがもたらす苦痛症状のメカニズムとアセスメント方法、および緩和方法について文献検討を行いプレゼンテーション資料を作成して臨むこと。 ・状況に応じて Webex meeting または Zoom を用いた遠隔講義を実施する。 ・オンデマンドの実施不可